

150^{cm}幅の大和写真、デジタルカメラで最初の記念すべき作品

竜王岳とハクサンイチゲ (富山県中新川郡立山町)

ハクサンイチゲは白山一花で、白山にはハクサンの名が付いた高山植物が多い。これは明治初年、高山植物の研究が、白山等の登山道の整備されている高山で行なわれ、和名に山の名前が付けられた事による。

筆者も高山植物の撮影を始めたのが白山であった。ゆえに、ハクサンの名前の付いた花にはとりわけこだわった。ところが、ハクサンイチゲだけは、白山に個体数が極端に少なかったのである。ハクサンイチゲの群落を見たいものだと、憧れるようになったのである。

そして、こだわったハクサンイチゲの群落を最初に出逢ったのが北岳。トラバース道でキタダケソウを撮影した翌日、山頂から下った斜面で出逢った。そして、次に出逢ったのが、立山連峰の剣岳へ向かう尾根道。

出逢った中でも最も大きい群落は、立山の室堂から一ノ越を越えて、東一ノ越に向かう途中、岩山の竜王岳を背景に咲く群落であった。ガスに煙る竜王岳を背景に咲くハクサンイチゲの大群生は、どこか遠い地球

の果ての世界を見ているような錯覚を覚える程、凄みがあった。

150^{cm}幅の巨大な大和写真は、大形カメラで撮影された繊細なフィルム画像をデジタル化して制作していた。これをデジタルカメラを使って最初に制作された記念すべき作品である。

撮影された2019年は、5000万画素のカメラしか出ていないくて、そのまま拡大しても耐えられない。そこで、新たな撮影方法を駆使して制作された2億4千万画素の繊細な画像である。

各地の高山における高山植物は40年前の1980年代とかなり変化がある。白山では、乱獲で絶滅寸前だったミヤマクロユリを増殖で復活させた。ところが、ハクサンコザクラ等は、スゲ科植物の進入で激減している。北岳では、鹿の食害で食べ尽くされる被害が出始めている。温暖化のスピードより、鹿の垂直移動が早いよう気がする。ハクサンイチゲもどうなるか、危惧されるものである。



ハクサンイチゲの大和写真、作品部分。花弁、雄しべの繊細さが表現されている。

作品画素数約2億4千万画素。

